

住民会議 NEWS

TOPIC

令和8年度教育フォーラムを開催（6/21）

東清川・中郷地区青少年育成住民会議 東清川分会（以下、住民会議）では、地域の学校が住民の皆さんにも現状を知ってもらい、子どもたちのために協働していきたいと考えている事柄を取り上げ、専門家の話を聞いたり、ともに考えたり、話し合ったりする場として『教育フォーラム』を毎年6月に行っています。過去には「コロナ後の学校と地域の関わり方に関するグループ討議」や「学校支援ボランティアの市内の様々な実践を知り当地域に適したものをともに考える」などに取り組んできました。今年度は昔とは変わってきている「不登校のとらえ方と地域としてできることを考える場」となることを願って6月21日に開催しました。

千葉県警で20年以上青少年の様々な問題に関わり、今は少年問題アナリストとして各方面でご活躍中の上條理恵氏を講師に招き「学校に戻すより大切なこと～子どもを救う「つながり」の力～」と題し、お話いただきました。不登校は小学校で40人に1人、中学校で15人に1人の割合で存在しているという事実に参加者は驚かされている様子でした。そして、その背景にあるSNSの問題、パパ活、OD（オーバードーズ）、闇バイトなどの現状について知ることから講演は始まりました。



上條氏の話の中で「親は子どもに対してスマホを買い与えるのではなく、貸し与えてほしい」という話が心に残っています。理由は、子ども名義のスマホの位置情報や通話履歴は個人情報保護の観点から保護者であってもすぐに見られないからです。実際に上條氏が関わった案件の中で、行方不明になった子の位置情報を知ろうとしたところ、そのスマホは保護者がその子の姉に買い与えたものであり、姉は県外に出ていたために、情報を得るまで8時間かかったことがあったとのことでした。わが子が行方不明になったのに持たせているスマホからの情報を得ることもできず何時間も待っていた親の気持ちを想像し辛くなった参加者もいたようです。保護者名義であればすぐにできること。もし、これから子どものスマホを購入するの家庭では、ぜひ貸し与えていただきたいと思います。



そんな現代において、不登校になりやすい子の特徴として「葛藤の経験が少ない」ということがあるそうです。学校は葛藤の連続だからその環境に耐えられないのです。また、葛藤が不足している子は、様々な状況に対応するための心のチャンネルが少なく、これも学校で過ごしにくい原因になるとのことでした。そしてこれは、その子ども本人や家族だけで解決できるものではなくてきているため、「誰かとつながる」という地域の力が生きてくるということです。関われる大人が一人でも多くいることが良い方向につながっていくと教わりました。

具体的には『4K3配り』という言葉覚えておいてほしいとのことでした。4K・①関心（我が子や地域の方に対して無関心でない。普段の様子や言動などに関心を持つことが大事）②気づき（服装や表情や言動、わが子の場合はスマホの使い方など、小さなサインに気づいてほしい）③声かけ（気になったら放置をせずに「どうしたの」と声をかけられる地域であってほしい）④確認（思い込みで判断するのは危険、しっかり確認を）のことです。わが子に対してはもちろんですが、親戚やご近所どうしても自然とできる地域だったら、誰かが孤立することはなくなるはずです。

3配りは4Kを機能させるために必要な心構え。「しっかり見ているよ」という『目配り』、小さな変化を読み取り、先回りしてする『気配り』。相手の立場に寄り添える『心配り』を各家庭で、そして清川という地域が自然とできる人ばかりになることが不登校の子を学校に戻す以上に大切なことだとまとめていただきました。

話が終わった後、上條氏のもとを訪れて感謝の意を伝えていたり、気になっていることを相談したりする姿が見られました。自分事としてこの教育フォーラムに参加してもらえたようです。明日の清川が少し明るくなったように思えました。

花いっぱい運動を実施 (6/30)

住民会議では年に2回、東清小学校の3年生と青少年相談員と一緒に東清地域交流センターの花壇等に花の苗植えをしております。

今年度の第1回目は、6月30日(火)にペチュニアや日日草、ポチュラカなどを植えました。

3年生は楽しそうに交流センターの正門脇の花壇と玄関前のプランターに花の苗植え作業を行いました。教えられた手順に則って、きれいに咲くよう心を込めて植えてくれました。



後日、夏休み中に水やりに来る小学生のために青少年相談員さんがすてきなカードを作ってくれました。東清地域交流センターの事務室で声をかけて水やりをするとカードにスタンプがもらえます。この様子は後日新千葉新聞でも紹介されました。

完成!

雨の予報でしたが無事に予定どおり実施できました。青少年相談員さんにあいさつをして作業を開始!

植える花の配置は小学生と相談しながら決めました。豊かな感性を最大限発揮してくれました。

テキパキと作業を行っていました。植え終わったら、水やりも積極的に協力してくれました。



MESSAGE

東清川分会長あいさつ (青柳分会長)

本年度より東清川・中郷地区青少年育成住民会議 東清川分会長を務めさせていただいております、東清団地自治会会長 青柳裕之です。よろしくお願いします。

この住民会議は、地域の学校やPTA、青少年相談員、民生委員等の皆様と力を合わせ、地域の青少年の健全な成長のために様々な活動に取り組んでいる団体です。

まず、6月21日に実施された「教育フォーラム」について紹介させていただきます。この教育フォーラムは地域ぐるみの青少年の健全育成に向け何ができるのかを考えるものです。ここ数年は「地域の一員として知っておきたい子どもを囲む現状」を主題として学習を重ねてまいりました。今年度は、「現代の不登校事情」について木更津市スクールソーシャルワーカーの上條理恵様を講師に招き、地域の一人としてどのように関わっていけばよいかについてお話をいただきました。周りに対する不信感から壁を作っていしまい、交流を自ら閉ざしてしまうことがある。これが一因と考えられる不登校に対しては、安全・安心が求められる場、社会とつなげるきっかけをつくる場としての地域社会が重要であるとお話いただきました。今後も地域の一員として知っておきたいことをテーマに「教育フォーラム」を展開していきたいと思います。

次に「花いっぱい運動」です。今年は6月30日に東清小学校3年生が交流センターにペチュニアや日々草を植えてくれました。交流センターを訪れた時、子どもたちの一所懸命に取り組んだ姿が、きれいに植えられた花から感じられ、感銘を受けました。訪れた際には是非見ていただければと思います。

今回、活動や地域のトピックスを紹介する広報紙「住民会議NEWS」を発行する運びとなりました。今後も住民会議の活動を住民会議NEWSに載せて発信していきたいと思います。